

いわき湯本病院

平子 真由美(看護部 外来主任 / 正看護師)

功 績 2018年より、外来待合室において糖尿病や高血圧など生活習慣病で通院されている患者さん向けの「かべ新聞」を継続的に作成・掲示し、患者さんへの教育と健康意識向上に大きく貢献している。待ち時間を有効活用した情報発信により、食事療法や生活改善への関心を高め、地域住民の健康増進に寄与している功績。

推薦者氏名 (看護部長 / 布施 由美)

推薦理由 患者さんが診察を待つ時間を“ただ待つ時間”ではなく、“健康について学び、自らの生活を見直す時間”へ変えた取り組みであり、看護師としての専門性と患者中心の視点が強く表れている。

また、自身の資格取得を実践へ結び付け、継続的に地域住民への健康教育へ還元している姿勢は、病院理念の実践そのものである。派手さはないものの、長年にわたり地道に継続し、多くの患者さんへ健康意識向上のきっかけを提供してきた功績は大きく、理事長賞に値すると考え推薦する。

内 容

同看護師は、自ら糖尿病療養指導士の資格を取得したことを契機に、「専門知識を患者さんへ分かりやすく還元したい」という思いから、2018年より外来待合室での“かべ新聞”を開始した。外来には糖尿病や高血圧など、食事・運動・生活習慣の継続的な自己管理が重要となる患者さんが多く通院している一方で、診察時間だけでは十分な療養指導が難しい現状があった。その中で、患者さんが必ず滞在する“待ち時間”に着目し、少しでも健康への意識向上につながるよう工夫を重ねながら活動を継続している。

かべ新聞では、旬の食材をテーマにしたカロリーや栄養価、食べ方の工夫、塩分・糖分の摂取に関する注意点、熱中症予防や季節ごとの体調管理など、患者さんの日常生活に直結する内容を分かりやすく掲載している。専門用語をできるだけ使わず、イラストや見やすいレイアウトを工夫することで、高齢の患者さんにも理解しやすい内容となるよう配慮している。

また、単なる情報掲示ではなく、「今日の夕食で気を付けてみよう」「少し食べ方を変えてみよう」と患者様自身が生活を振り返るきっかけとなる内容づくりを意識しており、実際に患者さんやご家族から「毎回楽しみに見ている」「参考になる」といった声も聞かれている。

約8年間にわたり継続して取り組んでいる点は特筆すべきであり、日々の外来看護業務を行いながら、患者教育を継続的に実践している姿勢は、専門職としての高い使命感と責任感の表れである。